

令和5年度 富山県衛生研究所 研究成果発表会

1. 日時 令和5年11月17日（金） 14：30～16：40
2. 場所 富山県薬事総合研究開発センター 創薬研究開発センター 2階大会議室

3. 内容

(1) 開会・衛生研究所の概要（14：30～14：40）

(2) 基調講演（14：40～15：10）

『新型コロナウイルスパンデミックの教訓』

所長 大石 和徳

パンデミックが始まって3年半が経過した。国民はマスク着用、社会的距離をとり、ワクチン接種や抗ウイルス薬治療を駆使して新型コロナウイルスの流行を最小化してきた。国内では7万人を超える死亡が報告された。100年に1度の新興感染症は国民にどのような教訓をもたらしたのか、また今後の見通しについて考察する。

(3) 研究成果発表（15：10～16：40）

- ① 富山県の感染症発生動向について -新型コロナウイルス感染症パンデミック発生後から現在- 研究企画部 研究員 高岡 美紗

新型コロナウイルス感染症のパンデミックが発生した2019年以降、呼吸器感染症を中心に多くの感染症の報告数が大きく減少しました。これらの感染症は、感染対策の緩和に伴って近年再び流行がみられるようになってきました。新型コロナウイルス感染症流行前とは異なる流行がみられた感染症を中心に、その発生動向について紹介いたします。

< 休憩 10分 >

- ② 富山県で初確認されたマダニ媒介感染症について

ウイルス部 主任研究員 佐賀 由美子

マダニの媒介する感染症である重症熱性血小板減少症候群（SFTS）と日本紅斑熱の症例は、昨年まで県内では確認されていませんでした。しかしながら、昨年5月にイヌの、11月にヒトのSFTS症例が、今年5月にはヒトの日本紅斑熱症例が県内で初めて確認されました。これらの症例について報告します。

- ③ 分子疫学解析によるレジオネラ症患者の感染源調査

細菌部 主任研究員 金谷 潤一

レジオネラ属菌は、土壌、河川などの自然環境だけでなく、公衆浴場、冷却塔などの人工環境にも広く分布するため、レジオネラ症の感染源は多様です。本研究では、レジオネラ症患者や環境中から分離したレジオネラ属菌の遺伝子解析を実施し、その結果から患者の感染源について精査しました。

- ④ 固相抽出法とイオンクロマトグラフィーによる巻貝中のテトラミン分析法の検討

化学部 主任研究員 山下 智富

エソバイ科エソボラ属の巻貝には、有毒成分としてテトラミンが含まれている場合があります。そして、バイ類は富山湾でも漁獲及び流通されており、衛生研究所化学部では、テトラミン食中毒発生時に迅速に対応できるよう、固相抽出法とイオンクロマトグラフィーによる検査法を検討および評価いたしましたので紹介いたします。

4. 定員、その他留意事項

(1) 現地参加：定員 60名程度（先着順）

申し込み多数の場合、来場をご遠慮いただく場合がございます。その場合には、その旨ご連絡いたします。連絡がない場合は、来場可能です。

(2) オンライン参加

参加申込書の参加方法欄の「オンライン」に○印をつけて下さい。後日、ZoomのURL等をお知らせします。

(3) 新型コロナウイルス感染症に係る感染対策

①次の事項にあてはまる方は、来場をお控えいただきますようお願いいたします。

- ・発熱や風邪症状がみられるなど体調不良の方
- ・基礎疾患をお持ちで、感染リスクを心配される方

5. 参加申込み、お問合せ

下記の申込書の事項を記入のうえ、11月10日（金）までに、FAX又は電子メールで申し込みください。事前申し込みがない場合、入場をご遠慮いただく場合がございます。

ご不明な点などは、研究企画部（TEL：0766-56-8146）までお問合せください。

富山県衛生研究所 研究企画部 行き

(FAX：0766-56-7326 E-mail：aeiseikenkyu@pref.toyama.lg.jp)

※ ☆は@に置き換え願います。

令和5年度富山県衛生研究所 研究成果発表会 参加申込書			
所属		担当者	
電話番号		E-mail	
参加者氏名	部署・役職等		参加方法
			来場・オンライン
			来場・オンライン
			来場・オンライン
			来場・オンライン
			来場・オンライン

※ ご記入いただいた情報は、本発表会の実施に係る業務以外には使用いたしません。

※ E-mailでの申し込みの場合、上記事項をメール本文に記載していただくことも結構です。